

こども・若者、子育て当事者等の意見聴取の状況

区分		施設等	人数
こども・若者	小学生	放課後児童クラブ(3クラブ)	51人
	小学生・中学生	Webアンケート(意見募集)(小5～中3)	17人
	中学生	周南中学校、袋井南中学校	13人
	高校生等	袋井高校、袋井商業高校、袋井特別支援学校	26人
	小・中・高校生	児童養護施設(まさばの家)	11人
	大学生等	静岡理工科大学、東海アクシス看護専門学校	20人
	若者	Webアンケート(意見募集)(15～39歳)	18人
	若者・支援者	若者の居場所(ユースネットふくろい)	8人
支援者	放課後児童クラブ、子育て支援センター、こども食堂 障害者支援団体(自立支援協議会部会長会) 社会福祉協議会、家庭児童相談室、児童養護施設 青少年健全育成部(袋井西、浅羽東) 小規模保育施設、保育所・認定こども園、幼稚園・小学校(保育士、教員等)	169人	
子育て当事者	乳幼児学級(2地区)、Webアンケート(妊産婦等)	25人	

26団体、web意見募集3件 計358人

みなさんからの意見への対応



1 ライフステージに応じた支援(こどもの誕生前から幼児期までにに関する意見について)

みなさんの意見(主なもの)	ポイント	書いてある場所など
●保育園にこどもを預けているが、こどもが病気等で仕事を休むことがある。預けやすい環境や預け先の情報が欲しい。	こどもを預けやすい環境や情報が欲しい	病気等の一時的な預け先や教育・保育施設等の情報提供を進めることにしています。【P34(2)、P54(5)】
●幼稚園のクラスは成長過程に合わせて学年ごとに分けて欲しい。	学年ごとにクラスを分けて欲しい	こどもにとってより最適な教育・保育環境となるよう取り組みを進めることにしています。【P35(17)】
●配慮が必要なこどもが増えているので、専門的に相談できる場所が増えるとよい。	専門的に相談できる場所が増えるとよい	切れ目のない支援を行うこども家庭センターの設置や早期発見に努め、関係機関と連携した支援、福祉サービス、療育につなげるなど個々の状況に応じて取り組みを進めることにしています。【P32(1)、P46基本施策3】
●園での生活や遊びを大切に、様々な体験活動を取り入れ、情緒豊かに過ごせる環境を作りたい。	情緒豊かに過ごせる環境を作りたい	幼稚園・保育所・認定こども園における「自立力」「社会力」を育む教育・保育を推進するとともに、保育士・幼稚園教諭に対する研修の充実を図ることにしています。【P35(11)、(12)】
●小さいこどもが遊べる室内型の遊び場があるとよい。	室内型の遊び場があるとよい	「袋井市こども交流館あそびの杜」を整備し、こどもたちが主体的に遊びや学び、体験を楽しむ場を提供することにしています。【P39(6)ほか】

みなさんからの意見への対応



2 ライフステージに応じた支援(学童期・思春期に関する意見について)

みなさんの意見(主なもの)	ポイント	書いてある場所など
●学校生活を安全・安心に過ごせるよう全室・体育館にエアコンを設置して欲しい。	全室・体育館にエアコンを設置して欲しい	必要に応じ施設の整備を行うとともに、避難所となっている体育館は、エアコンの設置に向けて取り組むことにしています【P37(7)】
●こども食堂や学習支援の場などの居場所がたくさんあるとよい。	居場所がたくさんあるとよい	地域住民等による学習支援を行うとともに、子ども食堂の円滑な運営にアドバイスを行うなど側面的に支援をすることとしています。【P37(15)、P39(4)(5)、P45(1)】
●放課後児童クラブの充実が必要。配慮が必要なこどもも増えており、指導員の確保と質の確保が必要	クラブの充実と指導員と質の確保が必要	受け皿の拡大に努めるとともに、職員の処遇改善や資質向上のための研修を行うことにしています【P39(1)】
●部活動の地域移行について、クラブや地域の指導者の確保が心配	クラブや指導者の確保をして欲しい	スポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができるよう部活動の地域移行を進める中で、機会を確保することにしています。【P37(19)】
●外国籍のこどもや通常学級の中で支援が必要なこどもが増えている。対応できる教員・支援員が増えるとこどもたちにより手厚い支援ができると思う。	こどもたちに手厚い支援をして欲しい	特別支援学級等における支援員の配置などにより、引き続き、一人ひとりの特性に応じた支援に取り組むことにしています。【P37(8)(9)、P46(7)】
●校則等を検討するときに、市内4校に違いがあると変更できないことがあるから、4中学校が連携して考えればよい。	4中学校が連携して考えていきたい	こどもたちが自分たちの意見を表明したりまとめるなど、自ら主体的に活動ができるよう支援することにしています。【P51(4)】

みなさんからの意見への対応



3 ライフステージに応じた支援(青年期に関する意見について)

みなさんの意見(主なもの)

- 将来の進学先や就職先になどの進路について悩んでいるこどもに大学や企業のことが想像できるような機会があるとよい。
- ひきこもりや生活困窮など複合的な課題を抱えていることが多く、関係機関が連携して相談・支援することが必要
- 学校は出会いの場がいっぱいあるが、就職したらそういう機会があるか心配
- 大学等を卒業後に地元に戻ってきやすくなるような若者が交流できる場や機会があるとよい。

ポイント

進学や就職先が想像できる機会があるとよい

関係機関が連携した相談・支援が必要である

出会いの機会があるとよい

若ものが交流する機会があるとよい

書いてある場所など

若者の学術への探求心や職業観を養い、人づくりを進める中・高校生学術交流事業や地元企業等との連携によるキャリア教育の支援を進めることにしています。
【P41(1)(2)、P43(4)】

生きづらさを抱える若者やその家族が、気軽に相談できる場や人とのつながりを持てる場を提供するなど、関係機関と連携しながら相談支援の充実を図ることにしています。【P42 3(1)~(5)】

結婚の希望を叶えられるよう、相談支援や出会いの機会・場の創出を支援するとともに、人とのつながりを再認識し、これからの人生目標を認識する機会として「はたちの集い」を開催する【P44 2(1)、P43(5)】

みなさんからの意見への対応



4 ライフステージを通じた支援に関する意見について

みなさんの意見(主なもの)

- 静かに学習できるスペースや相談しながら勉強ができる場所が増えるとよい。
- 室内のあそび場が少ない。幼児から小中学生も利用でき、こどもがのびのび遊べる施設があるとよい。
- 医療的ケア児の支援の充実を検討してほしい。
- ヤングケアラーなどの相談が気軽にできる窓口があるとよい。
- こどもと保護者の相談が同じ窓口でできれば、一体で切れ目のない相談、支援ができる。

ポイント

学習できる場所が増えるとよい

こどもがのびのび遊べる施設があるとよい

医療的ケア児の支援の充実してほしい

気軽に相談できる窓口があるとよい

同じ窓口でこどもと保護者の相談ができるとよい

書いてある場所など

地域住民等による学習支援を行うとともに、教育会館やコミュニティセンターなどの公共施設にこどもなどの学習・交流スペース等を提供していくことにしています。
【P37(15)、P39(4)】

「袋井市こども交流館あそびの杜」を整備し、こどもたちが主体的に遊びや学び、体験を楽しむ場を提供することにしています。【P44(7)ほか】

医療的ケアを必要とする児童生徒等が安全で安心して学校生活を送れるよう看護師を配置することにしています。
【P34(8)、P37(10)】

顕在化しにくいヤングケアラーについては学校を中心としてその把握に努めるとともに、福祉・保健・教育などの関係機関が連携し、適切な支援につなげていくことにしています。【P48(9)、(11)、(13)】

すべてのこどもとその家族、妊産婦に対して、切れ目のない支援を提供し包括的な相談支援等を行うこども家庭センターを設置していくことにしています。【P48(11)ほか】

みなさんからの意見への対応



5 子育て当事者への支援に関する意見について

みなさんの意見(主なもの)

- 出産、結婚、子育てにはお金がかかる。子育て等に係る祝い金や助成制度があるとよい。
- 買い物時に子どもを一時的に預けることができる施設があるとよい。
- 地域とのつながりが少なくなり、ネット依存傾向にある。子育て世代に人とのかかわりの大切さやかかわり方を伝えられるとよい。
- 男性の育児休業取得を促すために、中小企業へも補助金支給など、取り組みを支援してほしい。
- 子育ての悩みを地域や相談会などで相談できると良いと思うが、苦手な人、自分からいけない人への支援・サポートが必要

ポイント

子育て等に係る助成制度等があるとよい

一時的に預けることができる施設があるとよい

人との大切さ、かかわり方を伝えられるとよい

男性の育児休業取得促進の取組を支援してほしい

自分から相談できない人への支援が必要

書いてある場所など

子育て当事者が、安心して出産し、育児に携わる環境が整えられるよう、必要に応じて経済的支援を実施することとしています。【P52(1)~(4)】

保育所等において、保護者の就労形態の多様化等に対応した一時預かり事業を行うなど保育サービスの充実を図ることとしています。【P34(4)、P35(18)】

インターネットやSNSなどの適切な使用に係る啓発を行うとともに、親スキルアップ講座や子ども理解講座等を開催するなど、学ぶ機会や情報を提供することにより家庭の教育力を高める取り組みを行うこととしています。【P50(2)、P53(1)(2)】

ワーク・ライフ・バランスや職場環境の改善、国・県の助成制度等の広報・啓発に取り組むこととしています。【P54(1)】

子育て応援アプリの充実や子育てハンドブック等による情報発信を行うとともに、子育て家庭が孤立することなく、適切な支援ができるよう相談支援体制の充実を図ることとしています。【P53(8)~(10)】